



令和5年1月10日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第31号

第3学期始業式 学校長式辞

令和5年1月10日

校長 柿林 浩彦

みなさん、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

令和5年が始まりました。学校は第3学期となり、それぞれの学年のまとめの学期となりました。また、卒業証書授与式は3月8日（水）に予定されており、3年生にとって中学校生活は残り2ヶ月です。本当に残り少なくなりました。3年生だけでなく、生徒のみなさん全員が今まで以上に充実した中学校生活を送ってほしいと願っています。

さて、今年も楽しく、元気に、気持ち良く過ごしてほしいという思いから、「ありがとう」という言葉を、学校や家庭、地域でたくさん言ってほしいという話をします。

みなさん、「ありがとう」の反対語は何か知っていますか？

「ありがとう」の反対語は、「当たり前」です。その理由は「ありがとう」を漢字にすると見えてきます。漢字にすると「有難う」となります。これは「有難う」→「有難し」→「有ること難し」となって、「有ることが難しい」ということになります。簡単に言うと、「有ることがない」→「滅多にない」ということになります。

つまり「滅多にない」の反対語は、いつもあるという「当たり前」となるのです。

私たちは毎日普通に起きて、食事を摂れて、勉強や部活動をして、疲れたら布団で寝ることができます。これを「当たり前」と思っていますが、例えば、ウクライナは侵略戦争を受けて「当たり前」のことができなくなっています。そう考えると「当たり前」と思っていたことに対して、「有難い」ことなんだと感謝する気持ちが湧いてきます。



そもそも「ありがとう」という言葉は、「法句經（ほつくぎょう）」にある生命の驚きと感動を伝える言葉が、時代と共に感謝を表す言葉となったとされています。「法句經」とは、お釈迦さまが分かりやすく真理について説いた言葉で、最古の仏教経典と言われるもののです。

その中にこんな一説があります。

「人の生を享^うくるは難^{かた}く やがて死すべきもの 今いのちあるは 有り難し」

現代の言葉にすると、「人として生まれてくるのは難しいこと そしてやがていつか死ぬものである 今こうして命があるのは 有り難いことである。」となります。

数えきれない偶然と先祖の方々がいたからこそ、この世に生まれてきたのだから、命の尊さに感謝して精一杯生きましようという教えの言葉だそうです。

この話から私が思うことは、今普通に起きて、食べて、勉強して、遊んで、寝ていることは決して当たり前ではなく、感謝しなければならないと再認識することと、もう一つは「ありがとう」という言葉を声に出して誰にでも伝えることです。

感謝の気持ちを相手に示すとき、「すみません」という言葉を使うこともあります。しかし、「すみません」と言う言葉は、「ごめんなさい」という意味にも使うことができる曖昧^{あいまい}な面があります。ですから、感謝の気持ちを伝えるときには、「すみません」ではなく、「ありがとう」と言ってほしいのです。私も生徒のみなさんに声をかけたり、話をしたりすると、みなさんは「ありがとうございます」と言ってくれます。そのとき、とてもうれしい気持ちになります。自分が言われたときのことを考えてみると、感謝しているのは分かっている「すみません」より「ありがとう」の方がうれしいです。

第3学期は今まで以上に「ありがとう」という言葉が飛び交う学校・学級・部活動などであってほしいと願っています。今年も明るく楽しく頑張りましょう。

保護者の皆様へ

新年明けましておめでとうございます。旧年は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございました。今年もお子様の健やかな成長のお手伝いに尽力してまいりますので、何卒よろしく願いいたします。また、本校では、お子様の様子や教育活動などについて各種通信でお知らせしております。中学校から配信する「すぐメール」で、学校ホームページのURLをお伝えしますので、ぜひご覧ください。

